



国指定重要文化財 **ヨドコウ迎賓館**（旧山邑家住宅）をたずねて フランク・ロイド・ライト（Frank Lloyd Wright）設計

はじめに

フランク・ロイド・ライトと言えば二十世紀最高の建築家の1人で、彼の提唱した「有機的建築（オーガニック・アーキテクチャー）」は、自然と建築の共生を唱えた思想として後進の建築家・デザイナーたちに大きな影響を与えてきた。彼が生涯に実現した建築物は400を越えるが、なかでもアメリカにある滝の上に張り出されたバルコニーを持つカウフマンハウス（落水荘）やカタツムリの殻の様な螺旋状のスロープが特徴のグッゲンハイム美術館等が有名である。日本には愛知県犬山市にある明治村に正面玄関部分のみ移築された帝国ホテルや東京の自由学園明日館、旧林愛作邸、そして関西にある**ヨドコウ迎賓館**（旧山邑家住宅）※1の4作品が現存しているが、当時の姿を伝えているのは自由学園明日館と**ヨドコウ迎賓館**の2作品である。特にフランク・ロイド・ライトが日本で設計した住宅建築としてほぼ完全な形で現存する唯一の作品が**ヨドコウ迎賓館**である。

ヨドコウ迎賓館として公開される以前は兵庫県神戸市（東灘区）にある、灘五郷の造り酒屋・櫻正宗の八代目当主山邑太左衛門の別邸としてフランク・ロイド・ライトによって1918年（大正7年）に設計され、実施設計と監理はライトの弟子である遠藤新、南信が担当し、1923年（大正12年）から1924年（大正13年）にかけて建設された。1947年に株式会社淀川製鋼所がこの住宅を購入し、社長邸や独身寮として使用してきた。1974年には大正時代以降の建造物として初めて、かつ鉄筋コンクリート建造物としても初めて国の重要文化財に指定され、1989年から一般公開されている。阪神・淡路大震災の被害を受けたが、修復工事が終了し、再公開されている。

※1. **ヨドコウ迎賓館**（旧山邑家住宅）

所在地 兵庫県芦屋市山手町3-10

設計 フランク・ロイド・ライト（Frank Lloyd Wright）

竣工 1924年（大正13年）。

構造および形式 鉄筋コンクリート造、四階建、陸屋根、敷地面積 約5200㎡
建築面積 約359.1㎡、延べ床面積 約542.43㎡

国指定重要文化財 1974年（昭和49年）指定。

毎年春には八代目山邑太左衛門が長女の誕生を祝って、京都の老舗「丸平大木人形店」に依頼した雛人形の展覧会が開催されるが、**2016年11月より保存修理工事のため2018年11月頃迄閉館中**

2016 年の春に雛人形展が開催されている**ヨドコウ迎賓館**を訪れた時の記録である。阪急電車「芦屋川」駅から北（六甲山側）へ芦屋川沿いに 10 分程歩くと山の斜面に大きな木々に囲まれた西洋の城の様な建物が見えてくる。山の傾斜地を生かして建てられた建物は旧帝国ホテルの直線的な設計と似通っており、玄関や車寄せの柱や壁を装飾する幾何学的な彫刻が施された大谷石が美しい。4 階バルコニーからは、六甲山の山並や芦屋川から大阪湾につながる市街地が一望出来る。傾斜地に建っていることから 4 階建ての屋内は上下移動のための階段が多い。和洋折衷の手入れの行き届いた各部屋の造りはすばらしく、装飾、照明器具、調度品に至るまでライトのオリジナルデザインが随所に採用されている。そのディテールには作者の拘りが感じられるとともに素材についても大谷石や銅板、マホガニー材等が使用され、ライトの特徴がよく表れている。

関西に行かれることがあれば、是非、このフランク・ロイド・ライトの設計思想が息衝く**ヨドコウ迎賓館**に立ち寄ってみられることをお勧めする。

※、建物を撮影した写真の一部を紹介するが、掲載については株式会社淀川製鋼所 IR 室 PR グループの承認済である。

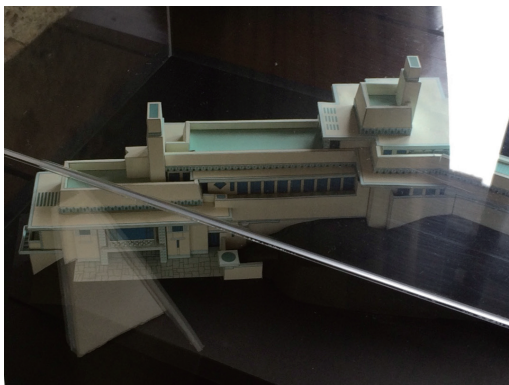
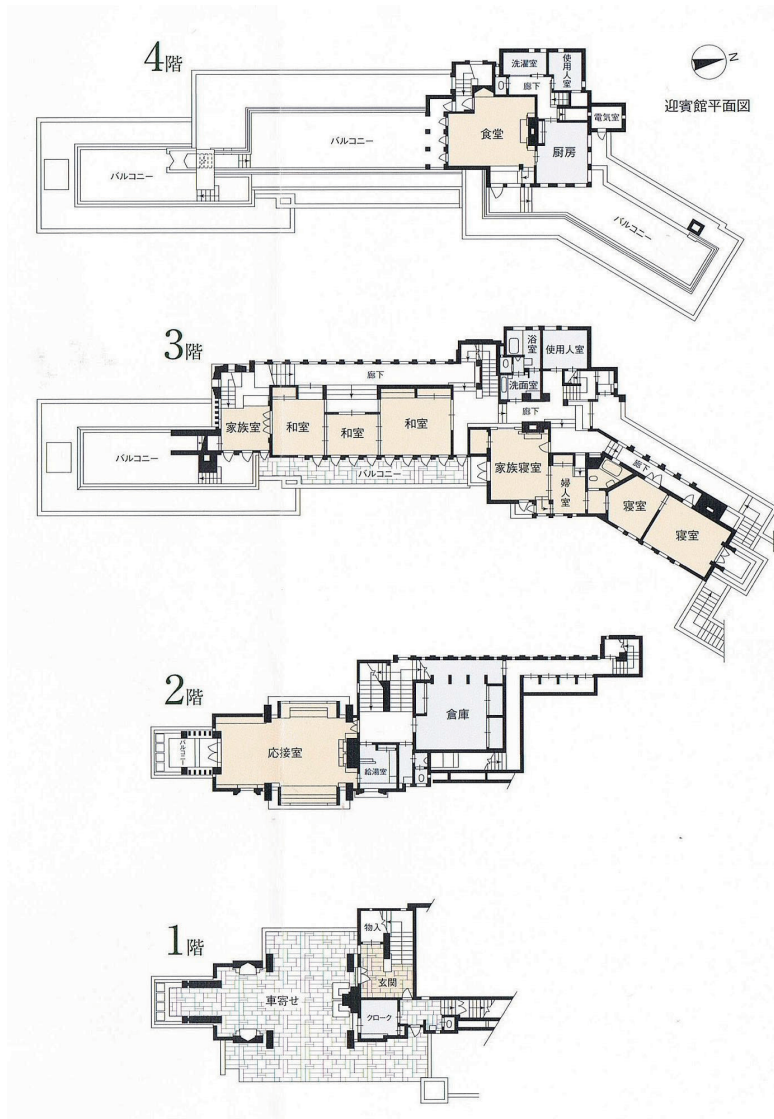


(左) 阪急電車「芦屋川」駅を下車して芦屋川沿いに川上へ歩くと見えてくる。駅からも見える
(右) アプローチから 1 階入口玄関、車寄せを望む

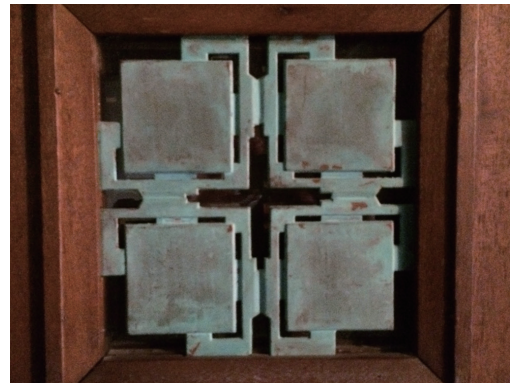


(左) 4 階食堂からバルコニー越しに大阪湾（南側）を望む
(右) 4 階バルコニー南端から食堂入口（北側）を見る

平面図 (WEB ページより引用)



(左) 応接室に展示してあった住宅全体模型 (ペーパーモデル)
(右) 彫刻の施された大谷石の柱と銅板の装飾金具



(左) 自然光を取り入れた2階応接室 北側正面に大谷石の暖炉、東西の窓下に作り付けの長椅子
 (右) 銅板の装飾金具 3階和室の欄間他各所に使われている



(左) 2階応接室 南側を見る
 (右) ライトが自邸「タリアセン」のためにデザインした照明器具の複製品



(左) 4階食堂 明り取りの小窓の造形が独特
 (右) マホガニー材を使用した装飾品

文責：細川 修 現在 愛知県立芸術大学名誉教授、中部デザイン協会理事、プロダクトデザイナー